

# イーマ 8月（第148回）例会のご案内

主催：特定非営利活動法人アイエイチエムエージャパン（イーマ） 理事長 根木 孝朗

新緑の美しい季節です。今年は5月から猛暑のニュースが聞こえてきますがお元気ですか。

さて、6月例会では白川太郎先生よりがんの予防と治療についてお話を伺いました。

今回はアルツハイマー病の一因とされるホモシステイン酸のマウスにおける抑制ワクチンの開発に成功された長谷川亨先生にお話しいただきます。

回復が難しいとされるアルツハイマー型認知症の予防と治療に関する最新のお話です。

ぜひお知り合いやご友人をお誘いの上、ご参加ください。

**日時：** 令和元年 8月30日（金曜日） 18:00～20:00

**テーマ：** ～最新の研究と新しい知見～

## アルツハイマー病の予防・治療について

**講師：** 長谷川 亨先生 佐賀女子短期大学人間生活学科 名誉教授



### 【プロフィール】

1945年福島県生まれ。1972年3月東北大学大学院薬学研究科にて薬学修士課程修了後、1980年4月岡山大学医学部にて医学博士号を取得。

1982年4月佐賀医科大学医学部（現佐賀大学医学部）地域保健科学助教授に就任し、環境変化とストレスの研究を行う。1984年から1985年にかけて、米国コネチカット州立大学薬学部のジョン・シェンクマン教授のもとに文部省（現文部科学省）在外研究員として留学、アルツハイマー病の原因物質であるホモシステイン酸(HA)合成酵素の研究を行う。2000年4月より佐賀女子短期大学人間生活学科教授に就任し、現在に至る。専門は公衆衛生学でストレス予防。

佐賀医科大学時代の1996年に緑茶の抗認知症予防作用を発見、ホモシステイン酸を緑茶が抑制する作用を発見したことをきっかけに、本格的にアルツハイマー病予防の研究を始める。また、積極的な生き方やある種の食事療法により、ホモシステイン酸濃度が低下し、アルツハイマー病でありながら、認知機能の回復や維持が可能であることも発見した。従来アルツハイマー病の原因と言われてきたアミロイドタンパクを除去する療法がヒトでは認知機能の回復ができないという報告が出たことより、学会から熱い注目を受ける。現在までにアメリカ国立衛生研究所（NIH）のマーク・マットソン教授やカリフォルニア大学神経精神部のフランク・ラフェルラ教授との共同研究により、アミロイド仮説とは異なるアルツハイマー病の新しい知見を報告している。

著書：「今すぐできる100歳までボケない生き方」総合法令出版

**【会場】** 四谷地域センター11階 集会室2・3

（東京都新宿区内藤町87）地下鉄丸の内「新宿御苑前」駅徒歩5分

**【参加費】** 2,000円 （懇親会は希望者実費）

**【参加申込み】** メール honbu@ihma.or.jp  
FAX 03-5225-1522



<http://www.ihma.or.jp>



ご氏名：	(紹介者)
ご連絡先：電話または FAX	
<b>【例会】</b> ご参加 ( ) 名	メールアドレス